

市立三次中央病院建替等調査特別委員会委員長報告

令和6年2月22日

市立三次中央病院建替等調査特別委員会における審査の経過と今後の市立三次中央病院の建替え事業に対する意見について申し上げます。

市立三次中央病院建替等調査特別委員会は、令和4年6月定例会において設置され、8人の委員による構成で、これまで8回の委員会を開催いたしました。

市立三次中央病院は、昭和27年6月に双三中央病院として開設され、現在地へは平成6年9月に公立三次中央病院として開院、三次市、庄原市を範囲とする備北二次保健医療圏の中核病院として重要な役割を果たしていますが、新築移転後29年以上が経過し、施設設備の老朽化が指摘されています。

平成22年度に策定された改修計画の報告書では、大規模修繕費を建替えに係る工事費へ充足させるべきで、現在の起債の償還が終わる2025年頃に建替え計画を推進することが望ましいとされており、また、施設内の漏水をはじめとする設備の老朽化が顕著になり始めていること、設備の近代化、診療科の増加などによって施設の狭隘化が深刻になっていること、高度医療機能への対応や感染症対策強化等の課題があることなどから、市立三次中央病院新病院基本構想が策定されることとなりました。

基本構想では、地域医療構想区域である備北二次保健医療圏の医療提供体制、将来患者数の予測や、市立三次中央病院の職員配置の状況、患者数の推移、経営収支の状況等の現状と課題などの分析から新病院に求められる機能や規模などがまとめられており、病床数は305床程度が提案され、また、新病院基礎調査報告書では、現在地における全面建替え、現在地における病院本館の建替えと健診センター改修、別敷地における全面建替えの3タイプの配置計画と概算事業費の比較結果から現在地での全面建替えが適当であるとの方向性が示されました。

基本構想策定に当たって本委員会では、市立三次中央病院建替基本構想検討委員会で検討された内容について調査を行い、その中で、駐車場の利便性の確保、看護師等病院スタッフの環境改善、脳神経内科の開設、そして全室個室化の可能性を問う意見などが出され、これらについては基本計画の策定に当たり更に検討

を求めることといたしました。

また、本委員会では他市の事例の調査のため、令和5年7月11日に全室個室型病棟による整備が行われた川西市立総合医療センターを、12日には環境配慮の手法による整備が行われた和泉市立総合医療センターの視察を病院関係者と一緒を実施し、それぞれ効果が期待されることを確認いたしました。

そして、令和5年12月22日開催の第6回の委員会では、基本構想をもとに、整備のコンセプトや施設整備の計画、診療部門の計画、収支計画等がまとめられた市立三次中央病院建替基本計画案によって、感染症対応の充実、療養環境の改善のため、ベッドコントロールの優位性から病床稼働率を見直し、病床数280床の全室個室型病棟とする整備方針が示され、また、令和6年2月7日開催の第7回の委員会では、この基本計画について行われたパブリックコメントに対する執行部の見解について調査を行いました。

基本計画案やパブリックコメントへの見解に対して委員からは、小さいお子さんや高齢者の受診がより容易になるよう駐車場の配置や庇、屋根の設置に十分な配慮を行うこと、また、民間企業とのタイアップやAI等先進技術の活用などによって新しい駐車場利用の手法が考えられないか、全室にトイレ、シャワーの整備が必要と考える、解体後の物品の有効活用等環境への配慮を一層進める必要がある、新規開設が想定される総合診療科、漢方外来などへの期待と陳情採択を行った脳神経内科の開設への取組の継続といった意見が出され、これらは今後のコンストラクションマネジメント事業者、基本設計者決定後にあっても大いに反映されるよう求めるものであります。

今回の新病院整備に当たってのコンセプトは、利用者にやさしい病院、環境にやさしい病院、職員にやさしい病院の3つの要素から、すべてにやさしい病院と掲げられていますので、このコンセプトに沿って、委員会で出された意見をまとめて申し上げます。

はじめに、利用者にやさしい病院についてであります。病院整備はハード面だけで完了するものではなく、そこで提供される医療サービス全般にわたって利用者にやさしいことが求められるものであり、市民の拠りどころとなるべく、防災の観点も含め、ソフト面においても一層の充実を求めるものであります。

次に環境にやさしい病院についてであります。基本計画にも掲げられているライフサイクルコストの縮減，CO₂排出量の削減，医療環境の変化への柔軟な対応等に努め環境にやさしい病院経営が一層推進されることを求めるものであります。

最後に職員にやさしい病院についてであります。コロナ禍以降医療従事者の皆さんにとっては厳しい環境が続いており，特に看護師の離職などの形で顕著に表れています。医療，看護の志，そしてそれを支える全てのスタッフに報いる労働環境の整備を求めるとともに，医療従事者がより自らの成長を実感できる組織となるよう取組が進められることを求めるものであります。

意見は以上であります。新たな投資により病院経営がさらに厳しくなることが予想される中，真に必要な医療サービスが地域において永続的に提供が可能となるよう，一層の経営の工夫と人材の確保，育成を切望し市立三次中央病院建替等調査特別委員会委員長報告といたします。